

ポーランド語のコピュラ文の lifetime effects という現象について

PIJANOWSKA Marta (東京大学(院))

本発表では、(人物を含む) 個体の属性を叙述する措定文というコピュラ文のタイプに注目する。措定文は一般的に、「花子は日本人だ」や「太郎は天才だ」のように個体のカテゴリー所属や個体の特徴について情報を与えている。先行研究では、措定文には互いに異なる特徴を示す複数のタイプが存在することが指摘され、より細かい分類の必要性が検討されている (Roy, 2006; Roy, 2013)。Roy は措定文の下位分類として **Characterizing** (時間の経過に伴い失われる可能性のある属性を叙述する文; アスペクト・マーカ、時間や場所を制限する副詞を伴うことがある) と **Defining** (変化しない、主語の本質を表す属性を叙述するので、過去形の defining 措定文には主語が死去したという含意がある (いわゆる lifetime effects) ; アスペクト・マーカ、時間・場所副詞と共起しない) の二つを提案した。

ポーランド語では叙述名詞を伴うコピュラ構文は以下の統語的パターンに現れており、すべてが以上二つの措定文の意味を表すことが可能である。英語の *be* 動詞に相当する *być* 動詞を用いる構文の場合叙述名詞は普通具格をとるが、まれに主格をとることもある (cf. (1a), (1b))。代名詞に由来する *To* コピュラの場合、叙述名詞は基本的に主格の形で現れる (1c)。 *To* は活用しないため、代名詞コピュラを用いる構文は時制を表示するため動詞コピュラを挿入することがある。

動詞コピュラ	‘być NPinstr’	(1a) Jan jest geniuszem Jan-nom.sg. be-pres.3.sg. genius-instr.sg ‘ヤンは天才だ’
	‘być NPnom’	(1b) Jan jest geniusz Jan-nom.sg. be-pres.3.sg. genius-nom.sg ‘ヤンは天才だ’
代名詞コピュラ	‘to NP’	(1c) Jan to (jest) geniusz Marek-nom.sg. COP be-pres.3.sg. genius-nom.sg ‘ヤンは天才だ’

Bondaruk (2013)はポーランド語の例文を観察し、‘być NPinstr’の形をとる措定文は Roy (2006)が記述した characterizing タイプの特徴を示し、一方主格の叙述名詞をとる構文 (‘być NPnom’, ‘to NP’) は defining の意味を表すと主張し、その証拠の一つとして lifetime effects 効果の有無を挙げている。

但し、Bondaruk が挙げている用例はすべて前後の文脈を持っていない作例であり、lifetime effects の判断は難しい。それぞれの構文の用法をより正確に記述するために、ポーランド語の文学作品からコピュラ文の実例を集め、過去形の用例については lifetime effects が見られるか否かの確認を試みた。本発表では調査でみつけた実例を挙げながら、Bondaruk (2013)の一般化の妥当性について考察する。

参考文献 : Bondaruk, Anna. 2013. *Copular Clauses in English and Polish*. Lublin: Wydawnictwo KUL. / Roy, Isabelle. 2006. Non-verbal predications: A syntactic analysis of predicational copular sentences. Ph.D. diss., Los Angeles, University of Southern California. / Roy, Isabelle. 2013. *Nonverbal Predication: Copular Sentences at the Syntax-Semantics Interface*. Oxford University Press.